

令和元年度 第1学年 国語科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の学習に意欲的に取り組む。 ・物語を読むことが好きな児童が多く、様子を想像して音読したり動作化したり意欲的に取り組むことができる。 ・自分が話したいことについて、組み立て方や順番が分かると話すことができる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい筆順で書いたり、平仮名や片仮名を書いたり読んだりすることが定着していない児童がいる。 ・言葉のまとまりに気をつけて音読したり、書かれていることを把握したりする力に差がある。 ・相手が伝えたいことを理解したり、自分が聞きたいことを集中して聞いたりする力が身に付いていない児童が多い。 ・簡単な文章の中で、助詞の使い方が定着していない様子が見られる。 	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が伝えたいことや考えを組み立てて話したり、相手の話の中で、大事なことを落とさないように集中して聞いたりする力。 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【 授 業 改 善 策 】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の経験や身近な話題を取り上げて交流する場面を多く取り入れる。 ・型を示したり、分かりやすい課題や内容を提示したりして、話すこと、聞くべきことをはっきりしてから聞けるようにする。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名：<u>ともだちに、きいてみよう</u> 指導時間：<u>4</u>時間 指導時期：<u>1 2</u>月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話すときの順序を組み立てるために、チャートや順序メモなどを活用して話したいことをイメージしたり、整理したりする。 ・聞く時に、自分が聞きたいことをはっきりと考えてから、相手の話を聞かせるようにする。 ・活動の流れを掲示物などを使って明確に示す。また、提示したものを毎時間活用することで授業の流れに常に見通しをもてるようにする。

令和元年度 第1学年 算数科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量の大小など、感覚でとらえて考えられる児童が多いが、十分でない児童もいる。 ・10までの計算で指を使って計算する児童がいる。 ・計算問題はスムーズにできるが、文章題になると、問題場面を正しくとらえられず、立式や答えを見つけるのが難しい児童が多い。 ・正しく数字を書けない児童がいる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章題の中で意味や求めたいことを正しくとらえることが難しい。 ・計算力に個人差がある。 ・引き算の計算を苦手とする児童が多い。 	
<p>重点的に育成すべき【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題の意味を正しくとらえ、演算決定や立式ができる力を身に付ける。 ・計算力（速さ、正確さ、対応力）を身に付ける。 	
<p>【授業改善策】</p>	<p>授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に問題場面をとらえることができるように、掲示物や具体物を活用する。 ・文章題の文の中から、立式に必要な語や数字に印をつけて、意識できるようにする。 ・半具体物の操作を多く取り入れていく。
	<p>実践する単元</p>	<p>単元名：_____ひきざん_____</p> <p>指導時間：__13__時間 指導時期：__11__月頃</p>
	<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や図を使って、問題場面を把握できるようにする。 ・具体物で、数の動きを理解できるようにしたり、半具体物を実際に操作する場面を多く取り入れて、自分でも確かめられるようにする。 ・既習の内容（10のまとまりをつくる、演算決定のキーワードなど）を適宜振り返りながら、学習を進める。

令和元年度 第1学年 生活科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の様子や季節の変化など、様々な着眼点で観察することのできる児童が多い。 ・観察して分かったことや、気付いたことを正確に記録することを苦手とする児童がいる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の生活について考え、表現することについて、気付いたことなどを絵で表現できる児童は多い。しかし、気付いたことを適切な言葉で表現できない児童が多い。 ・身近な人々、自然と触れ合う経験が少ない様子があり、意欲的に関わり合う態度が育っていない面が見られる。 	
<p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察したことを正確に表現すること。 ・身近な人々、社会及び自然について考え、気付いたことを言葉で表現すること。 ・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、生活を豊かにしようとする態度 	
<p>【 授 業 改 善 策 】</p>	<p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを友達と交流したり、友達と比べたりする場面を設ける。 ・ワークシートに書く際に、どんな表現が使えるか共有する時間を取ったり、よく記録できている児童のカードを見合ったりして、表現のアイデアを集める。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： <u>ふゆとともにだちになろう</u></p> <p>指導時間： <u>12</u> 時間 指導時期： <u>1～2</u> 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝承遊びの活動では、地域のお年寄りとの交流の場を設けて、様々な人との関わり方を学べるようにする。 ・交流の機会を数多くとり入れて、気付いたことを共有できるようにする。 ・冬の自然を生かした遊びを数多く経験させる。 ・冬の遊びを調べる、考える、工夫する、やってみる、という流れで様々な思考ができるようにする。

令和元年度 第1学年 音楽科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌ったり、リズムをうったり、楽しく活動している。 ・楽しく歌えるが、怒鳴ったり、大声を出したりする児童がいる。 ・リズムがとれず、活動に入れない児童がいる。 ・音楽活動に参加できない児童がいる。 ・鑑賞で何を言ったり書いたりしていいかわからない児童がいる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能。 ・リズムを聞いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能。 ・鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。 	
<p>重点的に育成すべき【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を味わって聴くこと。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能。 ・音楽活動の楽しさを体験する。 	
<p>【授業改善策】</p>	<p>授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・模範の歌唱を何回も聞かせて、音程に慣れさせる。 ・歌唱の際、主旋律を聞かせて歌わせる。 ・様々なリズムの音楽を聞かせ、まずは自分のできる活動（手拍子、体を動かす、など）でリズムをとる。 ・鑑賞は何を聞いたら良いのかを示してから、聞かせる。
	<p>実践する単元</p>	<p>単元名：<u>いろいろな おとを たのしもう</u> 指導時間：<u> 7 </u>時間 指導時期：<u> 1 1 </u>月頃</p>
	<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既に児童は知っている曲なので、想像を広げるために星空の写真や絵を見せて、想像をしやすくする。 ・怒鳴ったり、大きな声を勝手に出したりしないように、曲のイメージをしっかりもってから歌わせる。 ・活動の数をたくさん例示し、活動に参加できない児童もできそうなものから選んで参加させる。 ・自分で考えた表現活動の楽しさを味わうため、想像したことから楽器を選んで演奏する。

令和元年度 第1学年 図工科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を描いたり、ものをつくったりすることへの意欲が高い。 ・粘土や紙工作で立体的に造形物を作る力の高い児童が多い。 ・互いの作品のよさや工夫しているところを見つけることができ、鑑賞や交流も楽しむことができる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の完成への見通しがもてないと、活動を進められない児童がいる。 ・一つの作品として、丁寧に仕上げることに意識が向けられない面が見られる。 	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現したいものを自由に伸び伸びと表現する力。 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【授業改善策】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な題材や素材を使う経験を増やしていく。 ・完成品を具体的に見せたり、テーマについて友達と交流したりしてから制作に入るなど、表現したいもののイメージを明確にできるようにする。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： <u>ゆめのまち さんちょうめ</u></p> <p>指導時間： <u>6</u> 時間 指導時期： <u>1～2</u> 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材をよく触って、見る時間をしっかり取り入れる。 ・アイデア会議をグループで開くことで、素材を使って何ができるかのアイデアを集めさせる。 ・教科書の写真だけでなく、教師が作った具体的な作品も見本として提示することで、作品のイメージをしやすくする。 ・活動の流れをスタートからゴールまで示し、毎時間提示する。

令和元年度 第1学年 体育科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びに楽しく取り組んでいる児童は多いが、力の差が大きい。 ・いろいろな運動を経験していない様子が見られる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動遊びの行い方を工夫することができない児童が多い。 ・運動遊びについて、自分の考えた工夫を友達に伝えることができない児童が多い。 ・運動遊びに進んで取り組む児童は多いが、様々な運動経験が少なく、多様な運動に対応できない児童がいる。 	
<p>↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びをする際の、課題やきまり、用具の使い方について知ること。 ・運動遊びをする際に、自分の考えたことを友達に伝えて、より工夫すること。 ・様々な運動遊びを経験し、体の使い方を知ること。 	
<p>【 授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓</p> <p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びをする前に、その運動遊びの行い方を説明する場面を設ける。その際に視覚的に分かりやすく伝えるようにする。 ・運動遊びに取り組むときに、グループなどの小集団での活動を取り入れて、一緒に考えたり交流したりする時間を設定する。 ・見合う時間を作り、運動のこつを見つけられるようにする。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： <u>ボール投げゲーム</u></p> <p>指導時間： <u>10</u> 時間 指導時期： <u>10</u> から <u>11</u> 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろいろな的当てゲームをしよう」では、ルールを拡大して貼ることで、いつでも視覚的に確認できるようにする。 ・「いろいろな的当てゲームをしよう」では、様々な活動の場を用意することで、多様なボールの投げ方を身に付けさせる。 ・「チーム対抗的当てゲームをしよう」では、チーム作戦タイムの時間を設けることで、友達と効率よく的当てができる方法を伝え合わせる。 ・「チーム対抗的当てゲームをしよう」では、きまりを守り誰とでも仲よく運動している児童や、安全に気を付けて運動している児童を褒めることで、そうする意欲を高めていく。